

5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ

I 概要

熊本県医師修学資金貸与制度を利用している学生は32名おり、毎月1回、地域医療に関する興味・関心を深めることを目的として、学生達で企画した内容を中心に「地域医療ゼミ」を開催しています。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、主にリモートでの開催となりました。そのような中、遠隔地の講師によるセミナーの開催等、オンラインの利点を生かしたゼミを開催することが出来ました。

なお、第1回ゼミは、新入生の歓迎をかねて自治医大生、県外卒の学生も参加できるように対面とリモート(Zoom)のハイブリット方式で実施し、また、第11回ゼミは、6年生の卒業を祝って追出しゼミとして対面で実施しました。

1年生	1人
2年生	5人
3年生	5人
4年生	7人
5年生	6人
6年生	8人

II 活動報告

◆ 第1回地域医療ゼミ(2022年4月21日/対面とオンラインのハイブリット方式で開催)

新たに熊本県医師修学資金貸与学生として入学した1年生と自治医大の1年生の自己紹介、学年を超えたグループを作って歓談を行うなど、学生間の親睦を深めました。

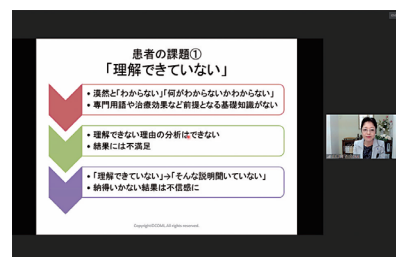


◆ 第2回地域医療ゼミ(2022年5月19日/オンラインにて開催)

熊大生が語る、熊本大学のキャンパスライフとキャリアと題して、自治医大生も聞くという観点から熊本大学医学部の6年間や地域卒の義務とキャリアについて、熊本大学の学生から発表がありました。

◆ 第3回地域医療ゼミ(2022年6月16日/オンラインにて開催)

多職種連携について、ささえあい医療人権センター COMLの山口育子氏から「患者と医療者が協働する医療を目指して」と題して講演をいただき、患者が医師に求めるインフォームドコンセントとは、患者が医師の説明を理解するために、医師として何をすべきか等について講師のお話をお聞きしました。



◆ 第4回地域医療ゼミ(2022年7月21日/オンラインにて開催)

8月9日、10日で予定されていた夏季地域医療特別実習について、地域医療・総合診療実践学寄附講座及び地域医療支援センターの教員からの説明を受けました。学生たちは、夏季実習のスケジュール、当日の各自の行動、新型コロナ感染防止対策等について、それぞれ確認をしていました。しかしながら夏季実習については直前に中止が決定しました。

◆ 第5回地域医療ゼミ(2022年9月15日/オンラインにて開催)

熊本県医師修学資金貸与医師・学生、自治医科大学生・卒業医師が義務履行期間中必ず勤務する必要がある第2グループの知事指定病院及び第3グループの病院等のうち勤務期間の換算が第2グループ扱いとなる診療所について、リモートでの説明会(第1回)を実施しました。

第1回は、上天草総合病院、公立多良木病院、湯島へき地診療所の3施設から説明を受けました。参加

した学生・医師たちは、そこで勤務する医師から普段の医療活動の様子や専門医資格の取得等キャリア形成の実情、勤務先での指導状況等についての説明を受け、将来の勤務についてイメージを膨らませていました。

◆ 第6回地域医療ゼミ(2022年10月20日／オンラインにて開催)

熊本県医師修学資金貸与医師・学生、自治医科大学生・卒業医師が義務履行期間中必ず勤務する必要がある第2グループの知事指定病院及び第3グループの病院等のうち勤務期間の換算が第2グループ扱いとなる診療所について、リモートでの説明会(第2回)を実施しました。

第2回の説明会では、阿蘇医療センター、小国公立病院、河浦病院、栖本病院、新和病院、御所浦診療所からの説明を受けました。



◆ 第7回地域医療ゼミ(2022年11月17日／対面にて開催)

シネメデュケーションとして、医療をテーマにした動画を視聴し、グループに分かれて感想を話し合いました。災害時トリアージについての内容に、熊本地震と度々起こる災害の経験を重ね、改めて医師としての責務を学べた貴重な時間になりました。

◆ 第8回地域医療ゼミ(2022年12月15日／オンラインにて開催)

今回は、自治医科大生の企画で、実施しました。自治医科大の概要について説明を受けた後、グループに分かれて、メディア授業のメリット・デメリット、自治医大卒の現役医師へのインタビューをとおして、現役医師のオンライン活用事情について理解を深め、内容に関する感想を話し合いました。

◆ 第9回地域医療ゼミ(2023年1月19日／オンラインにて開催)

「制度とキャリア」をテーマにゼミを開催しました。最初に当センターの教員から、専門医制度の内容や運用の状況について説明を受け、次に県医療政策課から9月に更新された熊本県キャリア形成プログラムの説明、女性のライフイベントと義務年限の取り扱いについて説明を受けました。そして最後に3人の初期臨床研修中の修学資金貸与医師から臨床研修の現状についての報告がありました。

◆ 第10回地域医療ゼミ(2023年2月17日／オンラインにて開催)

熊本県医師会が主催し、熊大病院地域医療支援センターと日本医師会が共催となる「令和4年度医学生・研修医等をサポートするための会セミナー」に参加しました。今回のテーマは、「医師の育休とキャリアについて考える」で、育児休業を経験した2人の男性医師から講演いただきました。また、講演後「育休とキャリア」をテーマにグループワークも行われました。

◆ 第11回地域医療ゼミ(2023年3月24日／対面にて開催)

今年度最後となったゼミは6年生の追いゼミとして、対面による開催となりました。学生18名が参加し、卒業生挨拶、花束贈呈で6年生の卒業を祝いました。また、皆勤賞、功労賞の表彰、次年度より新たな幹事学年となる4年生代表からの挨拶や来年度の地域医療ゼミの実施計画についても説明がありました。



2. 令和4年度卒業生

● 吉田 梨紗

心折れては立ち直りを繰り返し、崖の端にしがみつような心地にもなりつつ何とかここまで上って来ることが出来ました。それもこれも両親や友人、寄附講座の先生方を始めとする周囲の皆様の助力あつての事であり、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。また修学資金貸与制度による金銭的不安面の解消にも大いに助けられて参りました。その御恩の大きさによって採らずに済んだ選択もあり、これからの人生報いる思いで貢献をしていきたい所存です。

お世話になった手前、今までの大学生活の後悔を包み隠さず述べることこそ必要なのではないかと思いますが、そうした思いで全てを総括する境地には誠に残念ながら未だ心が至れておりません。それでも書けることがあるならば、もっと私は人の優しさを信じるべきでした。人間悩みは尽きぬものですが、独りで抱え込むより周りに小出しにする方が恐らく総合的に幾分かマシな結果を招いたのと思います。

その独りで思うことの危うさを実感した例を一つ。先日、所属する弓道部で数年ぶりに追い出しコンパと射会が開催されました。入学当初は弓道経験者で電車通学生だったことから足繁く通った弓道場も、最近では忙しさやコロナ禍等で随分と遠くなり。そうして離れてしまった日々の中では部活と言うと幹部時代の失敗や引退後の後悔ばかり思い起こされるようになってしまい、遂には先の会への参加でさえ一瞬の逡巡が生じるほど部への所在がなくなっておりました。しかし、最後に在校生から送られたアルバムには忘れてしまっていた自らの弾けるような笑顔が沢山載っており、後輩の心遣いと懐かしさに感涙しました。この思い出を無視してしまっていたのかと愕然とするほどまでに物の見方は心境と環境に左右されるのだから、たまには他者の視点を取り入れることを意識せねばと強く思う出来事でした。

未だ道半ばであり、今後も険しい道のりと思いますが、反省を胸に出来る限り抱え込み過ぎず前に進めればと思います。

● 天野 ゆり

念願だった医学部に入学が決まり、胸が高鳴りながら入学式に臨んだのもついこの間のこのように感じます。浪人を経ての入学なので、自転車で通い始めた通学路はとても感慨深いものでした。1年次は部活の新歓や専門・教養科目で黒髪・本荘キャンパス間を行ったり来たりし、部活が決まると放課後の練習や強練、大学間の対抗戦、西医体などで本当に毎日が慌ただしく過ぎていきました。2年次は、親しい友人もでき大学にも慣れてきた頃で少しは楽になるかと思いきや、解剖実習・座学・合間の車校通い・部活の幹部交代であつという間に過ぎ、、、。3年次になると勉強内容も医学総論から各診療科に変わり、ようやく医学を学んでいるという実感がわき始めました。医学部は入学してから試験が多いとは伺っていたのですが、3年次後期～4年次前期にかけてのポリ前試験やCBT、OSCEは長期間ずっと試験勉強が続くので私にとって精神面でとても鍛えられた期間でした。

実習が始まると朝が早くて冬の時期は大変でしたが、身体診察のとり方や手技を見る機会も得られ、患者を通してこれまで勉強してきた内容への理解がより一層深まりました。地域枠では部活で中々ゼミに参加することができなかったのですが、1～2年の夏期実習で天草と水俣に行ったことをよく覚えています。私は熊本市内の生活しか経験したことがなかったのですが、実際に其々の地域に行ってみると美味しい食べ物や特産物、素敵な景勝地があったりと地域の魅力に触れることができました。一方で高齢化や診療科の偏り、医療・公共交通機関へのアクセスのしにくさなど地域ごとに抱える問題も異なり、医療者として熊本の地域医療の実情を把握していく責務があると感じました。大学での6年間には楽しいだけでなく、自身の将来に悩んで苦しかった時期もありましたが支えてくれる家族や友人、周囲の方々の存在は大変大きかったです。これから医師としての人生が始まりますが、志を忘れず時にはリフレッシュしながら、患者に寄り添う医師になれるよう精進したいと思います。6年間大変お世話になり、誠にありがとうございました。

● 野口 実奈

6年前に地域枠の学生として入学してから、時がたつのは早いもので卒業しようとしています。6年間の勉強は入学前に想像していたものよりもとても大変で、多くの苦労や努力がありました。仲間と切

磋琢磨しここまで来ることが出来ました。みんなと過ごした6年間は自分の人生の中で忘れられない思い出です。特に国試前には勉強部屋で、みんなで励ましあいながら勉強をしたのも今ではいい思い出です。

低学年の頃は座学がメインになりますが、学年も上がってくると実習が増え、楽しみも増えました。座学はよくわからないと思うことが多いですが、学年が上がるにつれ以前学んだ基礎がとても大切なことを身に染みて実感しました。

高学年になると、朝は早く夕方まで実習と大変なことも多かったですが、あと数年後には自分もこうやって働いていくという自覚も出てきて、楽しい日々を過ごすことが出来たと思います。特に地域医療では町の方たちとより近くで話をすることができ、手技の面でも多くの経験をさせて頂きました。どの実習よりも一番楽しく参加できたと思います。

ここ数年はコロナ禍ということもありしばらく開催されていませんが、私が入学したばかりのころは夏季合宿が行われていました。他の学生と異なり夏の合宿に参加し、熊本の地域のことについて調べ、その土地の方々と話をしたり郷土料理を食べたりと交流をするということは本当にいい経験になったと感じています。熊本の地域について深く知ることができ、将来地域で働くことがより楽しみになりました。

4月からは人吉医療センター、来年の1月からは熊本大学病院で研修させていただく予定です。この6年間で学んだことがしっかりと生かせるように頑張ります。

● 松岡 直樹

6年間大変お世話になりました。入学時は6年間も学生をするなんて長いなと思っていましたが、今思い返すとあっという間の6年間でした。

熊本地震に被災しながら浪人を経験し、現役の頃から志望していた本学へ合格した日の喜びを昨日のことに覚えております。思い返せば主に部活にバイト、勉強三昧の大学生活でしたが、6年間で様々な経験を通じて人間的に成長できたのではないかと感じます。

大学1年生では高校まででやってきた勉強との質の違いに慣れず、2、3年生では覚える知識量の多さに戸惑っていたのを思い出します。4年生に進級する頃から新型コロナウイルスの流行が始まり、今までの生活から一変し、様々な場面で制約が生まれ戸惑う毎日でした。地域ゼミでの夏季実習もここ数年無く、自治医科大学の学生、後輩や先輩、諸先生方との交流が少なかったのがとても残念でなりません。4年生からの病院実習では座学で学んだことがどの様に臨床現場で使われているのか、新しい知識を常に学ぶことの大切さなど、様々なことを学ぶことができました。6年生では卒業試験に落ちて1年生以来の再試になってしまいかなり精神的に参っていました。ただ自分の甘さを自覚しそこから更に勉強に励めたので、結果的には良い経験だったと思います。

4月からは国立病院機構熊本医療センターで初期研修が決まっております。いよいよ医師として社会に出ることに期待と不安の両方を感じております。正直私なんか先輩方の様に働けるのか、という不安の方が大きいですが、初期研修を通して知識・技術の研鑽に励めたらと思います。まだまだ未熟ではありますが、これからは熊本の地域医療に少しでも貢献できるように頑張っていく所存です。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、スタッフの皆様に感謝申し上げます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

● 渡邊 光紗

医学部6年を振り返るにあたり、まずは写真を見返しました。初めての自炊、部活動のイベント、組織学のスケッチ、西医体、夏季実習で訪れた天草・人吉、ポリ前授業のメモ書き、旅行の写真などがあり、充実した大学生活を送ることができたと感じています。Covid 19の流行以降は、ほとんどが勉強に関するスクリーンショットとなり、合間合間には自然や動物の写真が多く見受けられ、癒しを求めているのだと思います。医学生にとって、自宅でじっくりと学習する時間が増えたことは結果的に良かったと思うと同時に、人との関わりが途絶えてしまった時に、一縷の不安を覚えたことが思い出されます。5・6年生時の実習も一部は非対面での実施となり、実際に患者さんとコミュニケーションを取る機会が少なくなったことは今でも心残りです、今後取り返して行かなければと思っています。

地域枠として入学して以来の活動に絞って振り返ると、近年は制約もありましたが、毎月の地域医療ゼミや夏季実習、国保地域医療学会、COCODE！の対談など様々な活動に参加させていただき、地域医

療に関する見聞を深められたこと、大変有り難く感じております。特に夏季実習では、実際に各地域を訪れ、情報を収集し、現地の方々の意見を踏まえて自分たちなりの対応策まで考えるという良く練られた実習計画のお陰で、地域で本当に求められる医師像とは何か、自分が将来目指すべき地域医療の在り方とは…などと深く考えさせられました。それらが叶ったのは、地域医療・総合診療実践学寄附講座の皆様のご企画運営と県庁医療政策課の職員の方々のサポート、その他にも夏季実習や講演会などでお世話になった皆様のご尽力あってこそだと思います。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。いつも暖かく気遣ってくださり、誠にありがとうございました。

最後になりますが、今後も益々精進を重ね、熊本の地域医療を支える立派な医師になるべく努力することを誓い、結びとさせていただきます。6年間ありがとうございました。

● 相星 景子

国家試験が終わり新生活の準備で片付いた部屋を眺めていると、6年という月日を熊本大学で過ごしたのだと急に自覚して、誇らしくも少し寂しい気持ちが湧きあがります。

私が地域医療ゼミの一員となったのは二年生からでした。途中からの参加、そして熊本県外出身者で物珍しい存在であったのにも関わらず踏み込んでみようと思えたのは、同級生の存在も勿論のことですが先生方やスタッフの方々の温かい歓迎があったからこそだと思います。試験や部活、バイトに明け暮れて低学年を過ごしているうちにコロナ禍になってしまい、ゼミのメインイベントだと聞いていた夏季合宿に参加することなく6年間を終えてしまいました。ゼミの中心となった5年生では同級生の助けを多く借りながら企画するのは私にとって大きな経験と、熊本の地域に対する愛着のようなものがより深まったように感じます。

そして何より私にとって一番有り難く感じていたのは、年度始めに毎年設けていただいていた先生方との面談でした。高校生までとは違ってなかなか先生方に一学生として見ていただけることが少ない大学生活を心細く感じていたのですが、面談の時に勉強や進路のことだけでなく普段の生活や私個人の意見までも聞いてくださる先生方に、不安や将来の展望などを表現できる場があったことが本当に有り難かったです。一学生に目を向けてくださるゼミの先生方やスタッフの方々、そして県庁の方々の温かい支援があったからこそ、途中からゼミに参加したことを後悔することは今まで一度もありませんでした。ご支援をしてくださった皆様や、6年間支えてくれた仲間達と過ごした熊本の地に感謝しています。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、スタッフの方々、そして県の医療政策課の皆様、これまで多大なるご支援を誠にありがとうございました。これからもお世話なることと思いますが、少しでも県の地域医療のお力になれるよう尽力するとともにゼミのより一層の発展をお祈りいたします。本当にありがとうございました。